

第 22 号 | 2013 年 11 月 26 日発行

## 「子どもの育ちを支える保育力講座」を開催しました！

准教授 鈴木崇之

みなさんは「リカレント教育」という言葉を聞いたことがありますか？「リカレント教育」とは、経済協力開発機構（OECD）が提唱する「社会人が必要に応じて学校へ戻って再教育を受ける」という生涯教育を指す言葉です。

子ども支援学専攻では年に 1 回、卒業生に大々的に声をかけ、卒業生への学びの提供や、現場での悩みを共有する場を設けています。さらに、その場に現役学生にも参加してもらうことによって、身近な先輩から現場の生の声を聞いて学ぶ機会ともしています。

そのような子ども支援学専攻の卒業生と現役学生の双方の学習と交流の場である「子どもの育ちを支える保育力講座」が 11 月 23 日（土）に開催されました。28 名の卒業生と、16 名の現役生が参加してくれました。

10 時から 11 時には、2012 年度一杯で本学を定年された清水玲子先生（帝京大学）の講演「希望としての保育」を聞きました。「徹底して子どもの側に立つことを保育実践の中で考える」というテーマを中心に、子どもの気持ちの理解を深めた保育実践を行うための具体的な留意点を様々な事例とともに学ぶことができました。



11 時から 12 時は、グループに分かれて卒業生の現場での苦労話を披露しあいました。様々な異なる悩みもありましたが、共通する部分も数多くありました。短時間の中でしたので抜本的な解決には至りませんでした。しかし、「悩みながら保育をしているのは自分だけではない」という想いは共有できたかと思います。

13 時から 15 時は、民族歌舞団荒馬座による保育現場で活かせる和太鼓と踊りの指導法のワークショップが行われました。前半は和太鼓の叩き方。保育現場で和太鼓指導を取り入れている卒業生から、和太鼓を叩くのは初めてという学生までが参加していました。ところが、和太鼓指導に慣れた荒馬座の先生がたの上手な指導に導かれ、1 時間もする頃には和太鼓の基本パターンである「かがやけ囃子」を参加者全員で合奏していました。後半は「荒馬踊り」の基本ステップを練習しました。「荒馬踊り」は馬と共生してき



た東北の文化から生み出されたものです。長い歴史の中で育まれてきた民俗文化を子ども達に伝えていくことの重要性を体感できた、すばらしいワークショップでした。

卒業生にとっても現役学生にとっても、自分の保育観を再確認する良い機会となりました。清水玲子先生、荒馬座の先生がた、本当にありがとうございました。